

「伝わる」コミュニケーションとは

旭中学校 3年
志村 柚香

中学二年の夏、私は先輩からのバトンを引き継ぎ、吹奏楽部の部長になりました。音楽が大好きで「みんなと家族のような部活を作りたい」と新体制をスタートさせました。

私の通う旭中学校では様々な部活動があります。中でも吹奏楽部は一年生から三年生までの部員が七十名を超える旭中で一番人数の多い部活です。そんな大所帯（大家族）のお母さん（部長）が私に務まるだろうか…という不安もありましたが、少しでも居心地が良く、みんなが温かい雰囲気でき活動が出来るよう、私達幹部を中心にパートリーダーや部員みんな、先生方と話し合いを重ねながら活動をしてきました。そんな中、私は大きな壁にぶつかる事になりました。それは「みんなの前で話をする事」でした。

皆さんは「伝える」事と「伝わる」事の違について考えた事がありますか？私は「伝える事」＝「伝わる事」ではないと考えます。調べてみると、「伝える」とは、自分の考えや物事を一方的に他方へ受け渡す行為の事。主語は「自分」で、相手の耳に届けば伝えた状態。「伝わる」とは相手の心に言葉が届いている状態のこと。主語は「相手」で、一方的ではなく双方向のコミュニケーションが必要。とありました。（うーん…難しい）

調べてみたものの「自分の想いを伝える」という事の難しさを改めて感じ、どういう風に話をすれば良いのかと悩む事が多くなりました。頭の中、心の中には沢山の考え、想いが巡っているのに、それを上手くまとめる事が出来ずにいたのです。

「伝わらなかつたらどうしよう…」

「どう話したらみんなに伝わるんだろう…」
たまたま母に悩みを打ちあげました。母なら一緒に悩んでくれると思っていましたが、返事は即答。

「柚香が今感じている事を一生懸命伝えれ

ばいいじゃない。たとえ上手に話せなくてもその姿も含めてきっと気持ちは届くと思うよ。」

あまりにも即答だったので驚いてしまいましたが、そのひと言で何だかもやもやとしたものが吹っ切れたというか、気持ちがスッキリしたのです。それから、自分の伝えたい事を紙に書き出し、何とか話をする事が出来ました。

三年生になり、夏の吹奏楽コンクールを控えたある日のこと。どうやってコンクールに向けて頑張っていこうか、という話し合いの機会がありました。様々な意見が飛び交う中、その想いの熱さに私は感動していました。

「家族のような部活を作りたい」と活動目標を決め、引退される先輩方前で誓ったあの日の記憶が蘇ります。昨年度は新型コロナウイルスの影響で夏のコンクールが中止になり、とても悔しい想いを抱えながらの引退会でした。コロナ禍で思うように練習が出来ずにストレスを抱えながら過ごした毎日。そんな中、少しでも温かい雰囲気ので部活を作りたいとみんなで決めた目標。今回の話し合いでそんな「家族の姿」を感じたのです。

「練習方法の工夫や指導して下さった先生方、優しく教えて下さった先輩、支えてくれた仲間達、いつも見守り、応援してくれていた家族に、今精一杯の感謝の気持ちを伝えたい。そんなあふれる想いを演奏に込めて、ホールいっぱいに「旭中サウンド」を響かせたい」こうしてコンクールへの目標は決まりました。

結果としては、残念ながら次の大会に進む事は出来ませんでした。私達の姿を見てくれた後輩達に、その想いが伝わっていると嬉しく思います。「伝える」というのは単に言葉だけではなく「伝統」という形で「伝わっていく」のかもしれない。

現代ではSNSの普及などで、中学生の間でも多数の友人が「LINE」などで学校以外の時間でもメッセージのやり取りが出来るようになっていきます。とても便利なツールなのですが、簡単に「伝える」事が出来ますが、場合によっては自分は伝えたつもりでも、相手には伝わっておらず、様々なトラブルにつながる事もあります。ここ最近の私達は、面と向かって話をする事の大切さを忘れがちになっているように感じます。

本当に「伝えたい」事は、私はやっぱり直接言葉で伝えたい！真剣に向き合う事で、相手の心に「伝わる」のだと思います。

「伝える」と「伝わる」は一文字違いですが、全く違う。多くの人が「伝える」ところで止まっていて、「伝わる」ところまでは行っていません。人と人とのコミュニケーションで大切なのは「伝えること」ではなく「伝わること」心に届く事が大切なのです。その為には、相手に理解してもらいやすい話し方、表情を工夫し、相手への思いやりを忘れてはいけません。今後は私も自分自身の行動を振り返り「伝わる」コミュニケーションを目指していきたいです。